

再認定審査報告書

ジオパーク名:

ジオパーク 秩父

報告責任者:

秩父まるとジオパーク推進協議会
事務局長 井上 正幸

A. 一般情報

面積	892.50 km ²
人口	98,754人 (2019年9月1日現在)
日本ジオパークとして認定された年	2011年9月5日
前回のJGC再認定審査日と前回審査員の名前	2015年10月15日、16日 中川 和之、平田 大二、鳥越 寛子
連絡先氏名、肩書、メールアドレス	上林 敏一、事務局職員、 geo@chichibu-omotenashi.com
ウェブサイトのURL	https://www.chichibu-geo.com/
ソーシャルメディア (使用しているすべてのチャンネル)	Facebook https://www.facebook.com/geoparkchichibu youtube

B. 提出書類一覧

1. 本再認定審査報告書
2. 本再認定審査報告書に係る資料
3. 自己評価表 A 日本語
4. 自己評価表(日本オリジナル)
5. 自己評価表 A 日本語に係る資料



C. エリアの一体性

ジオパーク秩父は、埼玉県秩父市、同県秩父郡横瀬町、同郡皆野町、同郡長瀬町 及び 同郡小鹿野町 における行政区域をもって、その地域としており、認定当初（2011年）から変更をしていない〔E.1.2. [資料1](#) [資料2](#)〕。

また、当地域のうち、秩父市全域 及び 小鹿野町全域 は、甲武信生物圏保有地域（甲武信ユネスコエコパーク）に係る区域の一部となっている〔E.2.1.1. [資料3](#)〕。

さらに、当地域のうち、秩父市一部区域 及び 小鹿野町一部区域 は、秩父多摩甲斐国立公園に係る地区又は地域の一部となっている〔E.2.1.2. [資料4](#)〕。

D. 前回の指摘事項に関する取組・改善点

2015年12月14日に行われた第25回 日本ジオパーク委員会において、当地域は、日本ジオパークネットワーク（以下、「JGN」という。）の一員として、再認定された。

その際に、指摘された今後の課題、改善すべき点は、次のとおりであった。

1. ジオパーク秩父のテーマの見直し
2. 観光事業者との連携強化
3. 事務局体制・運営体制の見直し
4. パンフレット・WEBサイトの見直し
5. ジオツーリズムの確立と継続して実施できる仕組みの構築
6. 「地質学発祥の地」のストーリー構築・発信
7. 複合型天然記念物指定に伴う保全・活用等の検討
8. 新しいテーマやストーリーに沿ったジオツーリズムの展開
9. 複合型天然記念物指定に伴う保全計画の策定

秩父まるごとジオパーク推進協議会（以下、「当協議会」という。）では、指摘された事項を解決し、又は改善するため、2016年4月までに、「日本ジオパーク委員会からの指摘事項に関するアクションプラン」を策定した〔[資料5](#)〕。

このアクションプランに基づいて、現在に至るまでの4年間で取り組んできた活動については、概ね、D.1. から D.9. までに記述するのとおりである。

なお、これらの事項を含めた包括的な活動実績（計画）は、[資料6](#)（2015年度）[資料7](#)（2016年度）[資料8](#)（2017年度）[資料9](#)（2018年度）[資料10](#)（2019年度計画）のとおりである。

D.1. ジオパーク秩父のテーマの見直し

これについては、2018年度から2019年度にかけて、企画運営部会〔D.3. E.3.1.〕を中心に、次に記述するメインテーマ、サブテーマ及びジオストーリーについて検討を重ねた。

ここに至るまでの見直しに係る検討作業は当協議会の構成メンバーを中心として実施してきたが、その際、ジオパークの活動に関わるあらゆる関係者（住民 ガイド 行政 研究者 観光事業者など）が、それぞれの役割のもとに推進してきた多種多様な取組み自体が、ストーリーを構築するプロセス上で重要な要素となった。

今後、ジオパーク秩父に係る新たな魅力を発信するにあたり、各関係者が得意とする分野が、全て4つの新しいジオストーリーのいずれかの中で捉えることができるものによって変わったことによって、それぞれの事業が、ジオパーク秩父が推進する理念体系の下で成り立つことになり、各関係者における自己の事業が全体のストーリーの中でどの位置づけになっているのかを理解しやすくなったことは大きな前進である。

これらを見直した結果は、D.2.から D.4 まで、D.6. 及び D.8. に係る結果に影響を与えている。

D.1.1. メインテーマ：「大地の守人を育む ジオ学習の聖地」

前回指摘の中で、地域に多様な広がりを見せる活動から展望できるジオパーク秩父の全体像を表すものとして、既存のメインテーマ「大地の守人(もりびと)を育む ジオ学習の聖地(メッカ)」はふさわしくないとの意見を受けたことから、テーマの検討を行った。その結果、既存のメインテーマについては、当地域は日本の地質学の歴史上、特筆すべき場所であり、

明治以来の地質巡検から現在のジオツアーに至るまで、首都圏に程近い秩父を訪れる人々の重要な動機づけである 学習旅行 や 知的観光 を表現しており、認定当初に定められた本テーマは地域内で浸透していることから、今後も継続してメインテーマに設定していくべきとの結論となった。ただし、慣用表現ではあるが特定の宗教の聖地をイメージする「メッカ」との読みを廃し、「せいち」と読ませるよう修正を行った。

D.1.2. サブテーマ

加えて、メインテーマを軸に、ジオパーク秩父の全体イメージが広く一般的に理解され、さらに周知方法や伝えたいターゲットに合わせて使い分けられることができる新しい表現(キャッチコピー)をつくり、今回新たに2つのサブテーマを設定した。

サブテーマ名	設定の目的・理由
秩父に息づく、大地の記憶	ジオパーク秩父は、地球、そして日本列島の成立ちを知ることができる特別な場所であるということを印象づけ、地質ファンはもとより、ジオパーク秩父にこれから触れていただく多くの一般層、観光客にも、その壮大なストーリーを想像できるサブテーマとして新たに設定した。
ようこそ、日本地質学発祥の地へ	「地質学発祥の地」としてのPRはこれまでも長く行われてきたが、これを未来へと伝え、地域の誇りとし続けるため、今後も、そのストーリー・文脈の中で、特に由来があるサイトの紹介において、引き続き積極的に「日本地質学発祥の地」のPRを推進していく。

D.1.3. ジオストーリー

従前におけるジオパーク秩父に係るジオストーリーは、「海・秩父湾の証人」「地球の躍動・変成岩」「先人文化と固有の風土」「盆地を取り巻く山々」であったが、上述のサブテーマを新規に設定したことに合わせ、ジオパーク秩父の中で蜘蛛の巣状に相関していた地質現象をはじめ、自然、歴史、文化、産業などの様々な個別の事象を整理し、ジオパークにまだ触れたことのない人々にもその魅力とイメージが伝わりやすいストーリーに刷新を図った。

ジオストーリー名	ストーリー概略・主な領域
日本地質学発祥の地	明治時代、日本の近代地質学の夜明けから、秩父地方には数多くの学者や学生たちが訪れてきました。「地球の窓」と言われる長瀨の岩畳をはじめ、宮沢賢治やナウマン博士が足跡を残したジオサイトを巡り、秩父の大地が教えてくれる地球の成立ちを探ってみよう！
	日本列島形成時代（古生代～中生代）における秩父の大地の成立ちと秩父を舞台にした地質学の歴史
秩父の大地に眠る太古の海の話	千数百万年前、秩父盆地は海が広がっていました。その記憶を刻んだ地層の見える6つの崖と、当時生息した「パレオパラドキシア」など海獣の化石群は、「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」として、国の天然記念物になっています。海だった時代の秩父へタイムスリップしてみましよう。
	新第三紀の古秩父湾の時代の大地の成立ち、現代に蘇った海「秩父雲海」
時代を超えた人々の聖地	秩父は、古くから多くの人々の信仰を集めてきた地。秩父三社や秩父札所観音霊場などに代表される寺社には、人々が特異な地形に神秘を感じ、大切に守り伝えてきた特別な場所が数多くあります。人々の信仰と大地との繋がりを感じるジオサイトを巡りながら、心の旅に出かけてみましょう。
	秩父札所、秩父三社など人々の信仰が守ったジオサイトの歴史とその背景にある大地の成立ち

大地の営みと共に生きる	いつの時代も、この地に活力を生んできたのは、大地の恵みを受けて発展した産業や、色とりどりの文化です。絹織物が彩る秩父夜祭の歴史も、平賀源内が魅せられた鉱石の輝きも、秩父名物のお蕎麦も、実はジオと結びついていました。ジオパークだからこそ出会える驚きを、たくさん探してみましよう！
	新第三紀の秩父鉱山の鉱床形成、第四紀の河成段丘等の形成と秩父の地形が育んだ産業、文化

D.2. 観光事業者との連携強化

ジオストーリーの見直し〔D.1.〕と併行し、継続的に実施してきた各種の普及啓発活動が実を結んだ成果として、これまではジオパークと直接関係のなかった様々な団体からも、講演やガイドツアーについて依頼が来るようになり、実際に裾野の広がりを感じる事例はこの数年で確実に増えている。例えば、住民に係る分野では、中蒔田町会（秩父市 2015 年から）や 田村町会（秩父市 2017 年から）からの依頼によるジオパーク講演会〔D.8.2. E.7.3.〕、ガイドに係る分野では、秩父市医師団（2017 年）や 秩父生協病院（2018 年）からの依頼によるジオツアー、観光事業者に係る分野では、錦トラベルが新規に展開を始めた 化石発掘体験ツアー（2018 年から）などを挙げる事ができる〔E.6.〕。

D.3. 事務局体制・運営体制の見直し

2017 年度には、それまで秩父市産業観光部観光課内にあった当協議会事務局を 一般社団法人 秩父地域おもてなし観光公社（以下、「おもてなし観光公社」という。）内に移管した。当地域（秩父圏域 1 市 4 町）では、持続可能な地域を目指してあらゆる分野において連携して政策を実施する ちちぶ定住自立圏 を推進しているが、このうち産業振興分野において、同社が展開する諸事業 及び 秩父まるごとジオパークの推進事業 が組み込まれている〔E.7.1.1.〕。したがって、この移管は、ちちぶ定住自立圏の圏域、おもてなし観光公社の事業領域 及び ジオパーク秩父のエリア が同じであり、現在の事務局体制において、おもてなし観光公社 及び 関係団体 による 広域的な事業連携 及び 情報共有（特に、保全に関すること）を図りながら、テーマ〔D.1.〕に則したジオパーク秩父に係る活動を推進することが最も効果的であると考えた結果によるものである。

併せて、当協議会に係る運営体制について見直しを図り、2017 年度からは、運営委員会の下に 企画運営部会 を設置し、実務者レベルで、極め細やかに、事業の実施について検討を行うことが可能になった〔E.3.1.〕。今後は、企画運営部会の他にも新たな部会を立ち上げ、多くの関係者を巻き込んで積極的な事業展開を図ることとしている。

D.4. パンフレット・WEB サイトの見直し

当協議会では、過去にも公式パンフレットやガイドブックなどを多く制作してきたが、2018 年 7 月、ジオサイト 34 箇所（秩父札所観音霊場と同じ数）の再選定を行ったこと〔E.1.5.3.2.〕を受け、同年より、企画運営部会 において パンフレット・WEB サイトのリニューアル事業 を実施し、その結果、2019 年 4 月に 公式パンフレット を、WEB サイトについては、同年 5 月に、当協議会公式ホームページ（以下、本文において「公式 HP」という。）を公開した。

D.4.1. 新パンフレットの作成^{1 2}

ジオサイト（2018 年）34 箇所を含む全サイト及び拠点施設の位置を示したエリア別の地図をメインとし、ジオストーリー〔D.1.3.〕、地質区分図、当地域の生い立ちを地質年代表上で表現した「太古への旅」などを掲載した。また、携帯端末から公式 HP に誘導することができるよう QR コードを掲載し、公式パンフレットのみでは伝えきれない詳細な情報を WEB コンテンツ上に誘導をする工夫を図った〔E.1.3.1.7. E.7.2. 資料 11〕。

¹ [↓ Ctrl キーを押しながらクリックしてリンク先を表示 以下、同じ]
当協議会公式パンフレット〔表面〕

² 当協議会公式パンフレット〔中面〕

D.4.2. 公式HPのリニューアル³

2011年に公式HPを公開して以来、初めて大規模なリニューアルを実施し、魅力的なビジュアルとともに、使いやすく、感覚的に情報を探ることができる様々な工夫を施した。特に、ジオサイト、文化・歴史サイト、生態サイト、眺望サイト、拠点施設など全69箇所におよぶ見どころの詳細内容や位置情報を網羅したことはもとより、ジオストーリー別ページでは、ジオパーク秩父が語る様々な逸話を「ジオトピックス」として掲載した〔D.1. D.6.〕。さらに、モデルコース、各種刊行物の紹介など、実際にジオパーク秩父を訪れる際に参考になる情報も掲載した。これにより、コンテンツの情報量が格段に増え、再構築したジオストーリーを中心に一般の方にも伝わりやすい内容となった。今後も引き続き、公式HP単体ではなく、facebookなどのSNSを活用し、地域内外へ幅広く普及や啓発を図ることとしている〔E.1.3.1.7.〕。

D.4.3. 看板の新規設置・多言語化など

近年では、三峰口の白川橋、安谷川マンガン採掘坑・明ヶ指のたまご水と大カツラ（いずれも2018年度）に看板を新設した。現地サイトに設置済みの看板についても、毎年刷新を図っており、札所32番 法性寺の看板については、2018年度に多言語化（日本語、中国語、英語）を図った。2019年度では、道の駅などの観光拠点に設置済みのジオパーク総合看板の更新を随時行っている〔E.1.4.3. 資料12〕。

D.5. ジオツーリズムの確立と継続して実施できる仕組みの構築

近年、ジオパーク秩父は、秩父観光の一つの形として広く一般に認知されるようになったが、その受け皿となるガイドシステムの一つに ちちぶ案内人倶楽部⁴がある。これは、当協議会事務局を所管する おもてなし観光公社⁵が実施している事業であり、自然、歴史、文化など各分野のスペシャリストの団体が所属し、依頼者が希望するガイド内容に合う団体が案内人として対応するものである。2018年9月には、「地元ガイドと歩く！ミニ秩父旅⁵」として、ガイド付きツアーサービスが販売開始となり、その中に、ジオパーク秩父関連ツアーが紹介されている〔D.6. D.8.1.〕。案内人としては、当協議会の構成団体であるNPO法人（以下、「構成NPO法人」という。）などが対応している〔E.3.4.〕。

このガイドシステムを支援するうえで、当協議会は、2019年度中に公式テキストを作成し、配付することとしている〔E.1.3.1.3.〕。

また、当協議会の構成団体である鉄道各社も積極的にジオパーク秩父を紹介している。西武鉄道株式会社では、秩父を再発見するテーマ別キャンペーン「DIVE！CHICHIBU」シリーズの「秩父湾編」を展開し、特設WEBサイト⁶やポスター、PR動画を作成した他、同社広報誌などでジオパーク秩父を紹介している〔E.7.2.2.〕。秩父鉄道株式会社では、ジオパーク秩父を表したラッピング電車 秩父ジオパークトレイン⁷を運行している〔E.1.3.2.4.〕ほか、同社広報誌「PALETTE」2018年5月号においてジオパーク秩父特集⁷を掲載している。

さらに、秩父市では、姉妹都市である東京都豊島区や同じく荒川区において交流事業を展開しており、同区民を対象とした「大地の恵み体験ジオツアー in 秩父」（2016年6月）を催行した。豊島区では、秩父市移住相談センターが主催した「ジオパーク秩父講座」（2018年6月）を開催した。荒川区では、「あらかわエコジュニアクラブによるジオツアー」（2018年5月 同年10月）を開催し、当日の様子はあらかわケーブルテレビにおいても放映された⁸。

ガイドシステムの確立と、地域外への各種周知活動や連携事業の他にも、ジオパーク秩父の拠点施設の内容充実や観光施設におけるジオパーク展開を拡大することも含め、引き続き

³ 当協議会公式HP	〔トップページ〕
⁴ おもてなし観光公社HP	ちちぶ案内人倶楽部
⁵ おもてなし観光公社	地元ガイドと歩く！ミニ秩父旅
⁶ 西武鉄道HP	DIVE！CHICHIBU 秩父湾編
⁷ 秩父鉄道HP	PALETTE 2018年5月号
⁸ 荒川区公式チャンネル	特集「あらかわエコジュニアクラブ～秩父市里山体験バスツアー～」

き、既存の秩父観光を経験済みの 秩父ファン がジオパークへ流入するきっかけを演出していくことが肝要であると考えている〔E.7.1.2.〕。

D.6. 「地質学発祥の地」のストーリー構築・発信

これまでも、当地域は「日本地質学発祥の地」として、研究者、地質学を志す学生、地質ファンなどの中では広く認知されていた。しかし、ジオパーク秩父に新たに触れる一般市民にとっては、「日本地質学発祥の地」というフレーズから想像できる見どころ、魅力的なコンテンツが見えにくいといった実情があった。

このことを踏まえ、テーマの見直し と ジオストーリーの再構築 を行うにあたり、サブテーマの一つとして「ようこそ！日本地質学発祥の地へ」を設定したこと、ジオストーリーとしても「日本地質学発祥の地」を採用し、ジオパーク秩父の魅力発信の中で積極的にPRしていくことを決定した〔D.1.〕。

公式HP（2019年）においては、「秩父で迎えた日本の近代地質学の夜明け」「秩父の大地ができるまで～大洋の時代から大陸の時代へ～」「放散虫革命によって若返った秩父古生層」「秩父に古くから伝わる石の呼び名」などの記事(ジオトピックス)を掲載した⁹〔D.4.2.〕。また、「地元ガイドと歩く！ミニ秩父旅」の中に、「地球の窓 岩畳めぐり」コースを設定し、「日本地質学発祥の地」を実感できる常設ツアーを行うことができるようになった〔D.5. D.8.1.〕。

D.7. 複合型天然記念物指定に伴う保全・活用の検討

2016年3月1日に、当地域で発掘されたパレオパラドキシア、チチブクジラなど9つの化石標本と古秩父湾時代の地層を見ることが出来る6つの露頭が「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」として、国の天然記念物に指定された^{10 11}。哺乳類の化石や新生代の化石、そして化石群としての指定は初めてのことで、さらに化石と地層を併せた初の複合天然記念物としても全国から注目を集めている。

これを受けて、2017年6月30日には、埼玉県教育委員会、関係市町及び同教育委員会により天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」保存活用計画策定に関する協定書の締結が行われた〔資料13〕。ジオパーク秩父としても、当協議会事務局長が保存活用計画策定委員として、また、各教育委員会から選出された運営委員5名が事務局として策定に参画しており、2019年度中の計画策定に向けて現在も協議を進めているところである〔D.9. E.1.1.2. 資料14〕。

埼玉県立自然の博物館（当協議会構成団体である。以下、同じ。）では、これまでに公式リーフレット「国天然記念物古秩父湾」〔資料15〕や公式ガイドブック「古秩父湾～秩父の大地に眠る太古の海の物語」（2016年3月28日発行）¹²、ポスター、のぼりなどを作成した。また、こちちぶわんスタンプラリー¹³ や講演会の開催 など、積極的なPR活動を展開した。

当協議会主催事業としては、「ジオパーク秩父・天然記念物モニターツアー」（2016年10月26日 同年11月6日）を開催しており〔D.8.1. 資料16〕、構成NPO法人〔D.5.〕がジオツアーを開催するなど、ジオパーク秩父関係者全体で協力体制を築き、ジオツーリズムへの活用を積極的に行った。

D.8. 新しいテーマやストーリーに沿ったジオツーリズムの展開

テーマを見直し、及び ジオストーリーを再構築したことにより ジオパーク秩父の魅力を広く一般的に伝えることができるようになり〔D.1.〕、これに派生する活動の広がりに伴うあらゆるニーズに答えるために、ジオツアーのコースや講演会の内容なども多様性を帯びるものとした。具体的には、次のとおり、主な事例を記述する。

⁹ 当協議会公式HP

¹⁰ 文化遺産オンライン

¹¹ 埼玉県立自然の博物館HP

¹² 国立国会図書館サーチ

¹³ 埼玉県立自然の博物館HP

ジオトピックス

古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群

天然記念物「古秩父湾」

古秩父湾：秩父の大地に眠る太古の海の物語

こちちぶわん スタンプラリー

D.8.1. ニーズに合わせたモデルコースの拡充

これまでも代表的モデルコースとして6コースを紹介していたが、近年におけるジオパーク秩父が持つ様々な要素を再発掘し、コースへの組み込みを研究した結果、参加者の種別、移動方法、目的、対象エリアに合わせた多種多様なコースを新設した〔資料17〕。このことを踏まえ、公式HP(2019年)では、既存のコースを項目ごとに分類して紹介しており¹⁴、ジオパーク秩父を訪れたいとする方が持つ希望によりそれに叶ったコースを多数提案することができるようになった。さらに、これらのモデルコースは、4つのジオストーリー〔D.1.3.〕にも関連づけられており、ストーリー自体に興味を持った方がスムーズにコースを選択することができるようになっている。

なお、近年新設されたコースは、当協議会主催事業及び構成団体主催事業を含めたジオパーク秩父として経験を積んできたガイドツアーの実績に基づき、いずれも満足度の高い内容、無理のない行程で設定されたものになっている。

ジオストーリー別に捉えたモデルコースとしては、「ジオパーク秩父・天然記念物モニターツアー」〔D.7.〕におけるコースが文字どおりジオストーリー「秩父の大地に眠る太古の海の話」によるものであり、秩父市郷土学習教室(2018年5月30日)や東京シニア自然大学(2018年10月26日)のツアーでは、今までなかった秩父市大滝方面のコースを採用し、ジオストーリー「大地の恵みと共に生きる」の魅力が詰まった新たなコースとなった〔資料18 資料19〕。さらに、「地元ガイドと歩く!ミニ秩父旅」の常設コース「地球の窓 岩畳めぐり」は、もちろん、ジオストーリー「日本地質学発祥の地」を満喫することができるコースである〔D.5. D.6.〕。

D.8.2. ジオストーリーに根差した地元住民参加の場の創出

ジオストーリー「大地の恵みと共に生きる」〔D.2.〕における展開の好例が、中蒔田町会、田村町会主催によるジオパーク講演会である。同地区は、地質サイトではないが、当地域でも数少ない、地形が作り出した米どころの歴史があり、ジオパーク秩父のストーリーに結び付けることによって、ジオパーク講演会という新たな広がりを持つことができた〔E.7.3.〕。地元住民に係る生涯学習活動の機会を提供するツールとしてジオストーリー自体が機能している先進例といえる。

D.9. 複合型天然記念物指定に伴う保全計画の策定

古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群に係る国天然記念物指定に関する各種取組と保全活用計画の策定については、D.7.に記述したとおりであるが、当該計画の策定後、ジオパーク秩父においても、ジオパーク秩父保存活用計画の策定に向けた取組を推進する予定である。国天然記念物の保存活用計画と整合性を保ちながら、ジオパーク秩父に係る全体計画及び個別のジオサイトに関する詳細計画の構造を持たせ、地域全体の財産である地質遺産の保全と活用はもとより、持続可能な地域社会の発展に寄与する計画として位置づけられることを目指していく〔E.1.1.2.〕。

E. ユネスコ世界ジオパーク基準の検証

E.1. 領域

E.1.1. 地形地質遺産および保全

E.1.1.1. 地質学的重要性: 当地域における地質学的重要性は、次に掲げる多様性を伴う特徴を一つのエリアで捉えていることにあるものとする〔資料20〕。

E.1.1.1.1. 地形: 当地域は、関東平野西方の関東山地の北東部にあたり、奥秩父山地、上武山地、外秩父山地、秩父盆地及び山中地溝帯に区分される。奥秩父山地は、2,000メートル級の峰が連なり、地形的に一般的に急峻で、切り立った尾根と深いV字谷を特徴としている。上武山地及び外秩父山地は、1,000メートル級以下の低山で、なだらかな山の

¹⁴ 当協議会公式HP

モデルコース

中腹まで耕され集落ができています。秩父盆地には河成段丘が発達し、市街地が形成されている。山中地溝帯には白亜系（山中層群）の地層が広がる。

E.1.1.1.2. 中・古生界：当地域は東京から近くにあり、明治時代から日本の近代地質学における数々の先駆的な研究が行われてきている。秩父古生層 や 三波川結晶片岩 などの命名 及び これらに関する研究をはじめ、日本列島の模式となる研究が展開され、これまでに多くの地質学徒の育成に貢献してきたことから、日本地質学発祥の地 と呼ばれている。また、現在でも新しい研究が行われ、秩父帯 や 三波川帯 など西南日本外帯の付加体に関する新知見を得ることができると、世界に発信する地質学的拠点 の一つである。

E.1.1.1.3. 新第三系：秩父盆地には新第三系の秩父盆地層群（従前：彦久保層群 小鹿野町層群 秩父町層群 横瀬町層群）が分布している。これは約1,700万年前から約1,500万年前までにかけて海底に堆積したもので、地殻変動に伴う多様な堆積構造や、パレオパラドキシア、チチブクジラ、チチブサワラといった大型の哺乳類、魚類の化石、さらに貝類、甲殻類、サンゴ類、ウニ類、珪化木といった多彩な化石群集を良好に保存している。そのため、日本海拡大期の地殻変動や生物相を復元する上で重要な場所となっている。

E.1.1.1.4. 第四系：秩父盆地における荒川沿いなどには、高位（多摩期）、中位（下末吉期）、低位（武蔵野期～立川期以降）とした、大きく3つに区分される河成段丘堆積物を見ることができる。これらの第四紀堆積物は、かつての荒川などの河原に堆積した砂礫層、場所によっては粘土層 及び その上位に重なるローム層などで構成されている。中でも、高位段丘上に存在する多摩ロームは 中期更新世テフラの重要な模式露頭 の一つとなっている。

E.1.1.1.5. 花崗岩類の貫入と鉱床の形成：甲武信ヶ岳付近の大滝層群中には約900万年前に甲府花崗閃緑岩類が貫入し、周辺の堆積岩類を熱による接触変成でホルンフェルス化させている。中津川流域では、約600万年前に秩父トータル岩が貫入し、スカルン型鉱床（早期鉱床）は石灰岩と反応した接触交代鉱床を、後期鉱床は脈状、チムニー状の熱水鉱床を形成している。この鉱床は、140種にも及ぶ鉱物を産出することで知られており、日本におけるスカルン鉱床の分類上も特異な産状として「秩父型」と区分されている。

E.1.1.2. ジオパーク内のジオサイトの保全方法：当協議会は、JGNの一員として、日本ジオパークネットワークの自然資源保全に関する指針（2018年）を尊重する。

当地域におけるジオサイトの一部では、国立公園又は自然公園に指定されていること〔E.2.1.2. E.2.1.3.〕で、なおかつ、河川法、砂防関連法令、森林法、国土利用計画法、農地法、都市計画法、道路法、文化財保護法、その他保全に関連する県市町条例などにより保全が図られている¹⁵。

なお、ジオサイトの中には、上述したいずれの法令にも該当しないものがあるが、地域住民や関係機関の協力を得て、保全が図られている。

各ジオサイトに係る保全の状況については、資料21のとおりである。

当協議会としては、確固としたジオサイトの保全方法を整備する必要があることを認識しており、現在までに策定が進んでいる天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」保存活用計画 との整合性を図った上で、かつ、地域住民の協力を得て、ジオパーク秩父に特化した保存活用計画の策定に向けた取組を推進することとしている〔D.7. D.9.〕。

E.1.1.3. 保全管理計画に組み込まれた新しいジオサイト：〔該当なし〕

E.1.2. 境界線

ジオパーク秩父は、埼玉県秩父市、同県秩父郡横瀬町、同郡皆野町、同郡長瀬町 及び 同郡小鹿野町 における行政区域をもって、その地域としている〔C.〕。

このことについては、資料2 秩父広域図 などを用いて、公式HP（2019年）¹⁶ や 公式パンフレット（2019年）などに表示している。

¹⁵ 埼玉県HP 秩父県土整備事務所

¹⁶ 当協議会公式HP

「長瀬岩畳クリーン作戦」を実施しました
ジオサイトを探す 場所を探す

E.1.3. 可視性(ビジビリティ)

E.1.3.1. 種類別の説明・情報公開、広報活動方法について

E.1.3.1.1. 講座、講演会 及び 研修会の活動

近年、ジオパーク秩父の内容を扱った講座が増え、広く住民がジオパーク秩父を知り、楽しむ機会を創出している。特に、学習の場として、当地域の自然環境や民俗・歴史などあらゆる分野を学ぶことができる ちちぶ学セミナー や 小鹿野ときめき生活推進大学¹⁷ に代表されるように、市町それぞれで市民参加型の講座活動が盛んである〔E.5.2 E.8.〕。

また、当協議会の各構成団体では、年間を通じて地域内外から講演会の依頼を受けており、依頼元の団体との直接対応または事務局において対応を行っている。

講座、講演会及び研修会の実施状況（学校教育に係るものを除く）（単位：件）

年度	2015	2016	2017	2018	2019 (予定)
講座	13	17	19	24	14
講演会	4	9	7	13	12
研修会	4	5	0	0	-
合計	21	31	26	37	-

E.1.3.1.2. イベントなどにおける PR 活動

年間を通じて地域内外における 観光、教育に関連する各種イベントや催物などに積極的に出展し、ジオパーク秩父の PR を図っている。ブース設置を伴うイベントでは、ジオパーク秩父のポスターや各種パンフレット、のぼりを掲出している。また、秩父市観光課では、秩父地域地場産業振興センター 及び 関係する民間企業 と連携して、全国各地域の旅行会社に、いわゆる、秩父観光に係る営業を行っており、その際にも秩父観光の一つの形として、ジオパーク秩父の PR を積極的に行っている〔E.6.〕。

秩父観光に係る営業の状況（単位：件）

年度	2015	2016	2017	2018	2019 (予定)
地域内	1	5	6	4	3
地域外	7	7	6	11	7
合計	8	12	12	15	-

E.1.3.1.3. 冊子・パンフレットの作成

当協議会（事務局 構成団体）では、ジオパーク秩父に係る印刷物を作成し¹⁸、各種事業を展開している。公式パンフレットについては、ジオサイトの再選定（2018年）〔E.1.5.3.2.〕を経て2019年4月に完成したものが最新であり、続いて同年9月に、英語版公式パンフレットが完成した。

また、近年、ジオパーク秩父における活動に広がりを見せている現状を受け、2019年度事業（9月補正予算要求済み）として、新たに 公式テキストの作成 を進めている。すでに、企画運営部会を中心として2018年から実施検討を行ってきており、ジオパークの基本情報、基礎知識、ジオストーリー解説、各サイト情報等の他、私たちのめざすガイド像 2015 in 霧島 8項目（2015年 JGN 全国大会_ガイド分科会）を基本とする理念を含めた ガイドになるためのノウハウについて を掲載する予定である。当初は、当協議会構成団体や関係者へ配付し、ガイド養成マニュアル として活用していき〔D.5.〕、その後は、ジオパーク秩父決定版テキスト として書籍展開ができるようにする。

その他の発行物については、2019年3月に、埼玉県自然の博物館 が展示解説書「埼玉の自然誌 ～埼玉の自然を知る・学ぶ～」を発行した¹⁹。これは、埼玉県の地質・地形や生物相の概要をわかりやすく解説したものであるが、ジオパーク秩父について詳しく学びたい方の教科書となるよう意識して作成したものである。さらに同館は、2019年8月に、特別展「知って！埼玉」の展示解説書を発行した〔E.1.3.1.5. 資料 23〕。

¹⁷ 当協議会公式 HP

小鹿野ときめき生活推進大学「小鹿野の未来発掘！」講演を行いました！

¹⁸ 当協議会公式 HP

ジオ関係刊行物

¹⁹ 埼玉県立自然の博物館 HP

埼玉の自然誌 ～埼玉の自然を知る・学ぶ～

E.1.3.1.4. 現地看板の設置

ジオサイト再選定（2018年）〔E.1.5.3.2.〕に伴い、随時、現地看板の新設、更新を行っている〔E.1.4.3.〕。その際には、記載内容の更新はもとより、多言語化を行うようにしている。言語としては、基本的には、日本語、英語、中国語（簡体又は繁体）である。近年の実績では、中国人によるジオパーク秩父検証事業〔E.6. E.7.3.〕における現地ガイドで訪問実績がある、札所32番 法性寺における現地看板（2018年更新）、秩父ジオグラビティパークがオープンした「三峰口の白川橋」における現地看板（2019年5月新設）を挙げることができる〔E.1.4.3. E.7.2.1.〕。これらのサイトは、今後、インバウンド向けのガイドツアー又は外国人による個人訪問が増加すると見込まれており、優先的に整備を行ったものである〔E.1.3.2.4. 資料12〕。

また、国天然記念物に関連するものでは、2016年に、4箇所の露頭サイト（8_新田橋の礫岩露頭 21_前原の不整合 28_ようばけ 31_犬木の不整合）へ現地看板又は案内看板（道路上）を設置している〔D.7. 資料24〕。

現在のところ、拠点施設や道の駅などの観光施設に設置されているジオパーク秩父総合看板の更新・多言語化を行っており、今後は順次、看板未整備のサイト（非ジオパーク看板が存在するサイトを含む）における看板設置を行う計画である。

E.1.3.1.5. 展示・企画展

当地域内に13箇所ある拠点施設のうち、主要な拠点施設では、ジオパーク秩父に関する展示を常設しているほか、定期的に企画展を開催している。その他拠点施設では、公式パンフレットを置き、基本的なパネルを展示している〔E.1.4.1. 資料25〕。常設展示で大きな面積を確保しているもののうちのひとつ、秩父市歴史文化伝承館1階交流フロアにおいて、ジオパーク秩父の全体を捉えることができるジオストーリー〔D.1.3.〕別の常設展示を行っている。また、浦山ダム防災資料館 うららびあ2階展示スペースにおいては、各モデルコースやジオパークの概要パネルを展示し、ダムの堤体を眺めながら休憩ができるスペースとして機能している〔資料26〕。

常設展示自体がジオパーク秩父に全て関わっていると言いうことができる 埼玉県立自然の博物館 では、2017年に、常設展示にジオパークコーナーを設置した²⁰。また、定期的に企画展を開催している。現在は、「知って！埼玉」（2019年7月6日～2020年1月13日）と題し、ジオパーク秩父の範囲を中心に、埼玉県を代表する貴重な化石や遺物を展示し、日本列島誕生から縄文時代まで、日本の生物相の成立ちを知ることができる内容となっている²¹〔E.1.3.1.3.〕。また、次回の企画展では、「地図と模型で見る埼玉の大地」（2020年2月11日～同年6月21日）を予定しており、自然災害やその背景にある地質現象を地図や模型を通じてわかりやすく紹介する展示を行うこととしている。なお、この企画展には当協議会も協力しており、ジオパーク秩父関係者であり、個人で大型地形図を制作した方の作品を展示するなど、民間参加型の新しい取組が行われることになっている²²〔E.7.3.〕。

展示・企画展の実施状況

（単位：件）

年度	2015	2016	2017	2018	2019(予定)
展示・企画展	6	5	10	10	10

E.1.3.1.6. メディア・出版関係対応

ジオパーク秩父における取組は、しばしば、TV、ラジオ、新聞などの各メディアに取り上げられてきた。特に、NHK「ブラタモリ～秩父・長瀬編～」（2017年）は、近年で特に反響が大きかったもので、地域内外においてジオパーク秩父の認知度が格段に向上した。その余波を受け、当協議会、構成NPO法人 秩父まるごと博物館 及び 埼玉県立自然の博物館では、それぞれ、ブラタモリの関連ツアーを催行し、多くの参加者を得た〔資料27〕。テ

²⁰ 埼玉県立自然の博物館 HP

常設展示

²¹ 埼玉県立自然の博物館 HP

特別展「知って！埼玉 化石でたどる 2000 万年」

²² 当協議会公式 HP

埼玉県立自然の博物館でジオパーク秩父の交流会を行いました！

レビ埼玉「いまドキッ！埼玉」（2019年）においては、ジオパーク秩父特集として取り上げられた²³〔E.7.2.1.〕。

メディアの他にも、書籍、雑誌、企業誌などの多くの出版関係から依頼を受け、取材対応及び素材提供を行っている〔E.6.〕。2018年12月には、都道府県研究会が全国展開をしているシリーズの埼玉版「地図で楽しむすごい埼玉」（株式会社 洋泉社）²⁴の発行に全面協力している。2019年3月には「ブラタモリ～秩父・長瀬編～」書籍版²⁵が発刊され、同年8月には、小学館「サライ9月号」において、全国を代表するジオパークの一つとして紹介されている²⁶。

特に、2019年3月に秩父ジオグラビティパークがオープンしたことに伴い〔E.7.2.1.〕、当協議会構成団体では、これに関係する取材に対応することが急激に増えている。なかでも、インターネット番組（youtubeチャンネル）への対応が新たな傾向にある。

これらにより、ジオパーク秩父について積極的なPRを展開することができている。

取材への対応状況

（単位：件）

年度	2015	2016	2017	2018	2019 (予定)
メディア	1	3	7	11	26
出版関係	0	4	0	2	19
その他	0	0	0	1	6
合計	1	7	7	14	51

E.1.3.1.7. 公式HP及びSNSの活用

公式HP（2019年）に係るリニューアルの具体的な内容は、D.4.2.に記述したとおりであり、そこにおいて重要視したのは、コンテンツの充実はもとより、情報取得のためのユーザビリティと媒体を超えたコンテンツの連携である。

ユーザビリティ対策の一例では、知りたい、行きたいジオサイトを探す方法として、「場所を探す」「種別で探す」「写真で探す」「かるたで探す」とした数種類のソートから詳細ページをリストアップする方法を採用しているほか、Google マップ マイマップ上に全サイトの位置情報を掲載し、さらに、独自に概要図を掲載するなどの対応を図っている²⁷。

コンテンツとの連携については、公式パンフレット、現地看板、拠点施設の展示パネルなどフィジカル媒体に公式HPへ誘導するQRコードを掲載している〔D.4.1 E.7.2〕ほか、公式facebook²⁸においては、ジオパーク秩父に関連する日常的なニュースを掲載することはもとより、公式HP更新のお知らせを必ず掲載し、公式HPへの流入を促している。公式facebookへのフォロワー数は約1,500件（2019年9月1日現在）であるが、おもてなし観光公社（フォロワー数：約11,700件）²⁹や秩父市（フォロワー数：約3,400件）³⁰が運営するfacebookにおいても、定期的にジオパーク秩父に関連する記事を掲載し、又は相互にシェアをすることにより、より効果的に情報を拡散させることに努めている。

E.1.3.2. 視認性向上のための工夫について

E.1.3.2.1. デザイン

ジオパーク秩父に係る公式ロゴ（マーク＋文字）については、デザインマニュアルにより規定しており、これをあらゆる媒体において統一して使用している³¹〔資料28〕。特に、現地看板ではトータルデザインや使用するフォント、色味などを同一のもので展開しており、全体として統一性を保っている。

²³ いまドキッ！埼玉 コーナー1 ジオパーク秩父で遊ぼう！ 2019年3月30日放送分
²⁴ 国立国会図書館サーチ／洋泉社 HP 地図で楽しむすごい埼玉 図書
²⁵ 国立国会図書館サーチ ブラタモリ 18 図書
²⁶ 当協議会公式HP 「サライ9月号」と「旅行読売9月号」にジオパーク秩父が掲載されました！！
²⁷ 当協議会公式HP ジオサイトを探す
²⁸ 当協議会公式 facebook 〔トップページ〕
²⁹ おもてなし観光公社 facebook 〔トップページ〕
³⁰ 秩父市 facebook 〔トップページ〕
³¹ 当協議会公式HP ロゴマークの活用について

サブテーマ（2019年）〔D.1.2.〕については、各媒体においてジオパーク秩父のサブタイトルやキャッチコピーとして採用しており、ジオストーリー（2019年）〔D.1.3.〕については、拠点施設の常設展示や企画展においてパネル展示を計画している。

E.1.3.2.2. 観光系媒体への掲載

当協議会が作成していない観光系の発行物や街なかにおける観光案内板については、これらの地図上にジオサイトが含まれる場合には、その位置を記載（通例、ジオパーク秩父のマークをアイコンとして使用）し、ジオパーク秩父についての簡単な説明を記載している。具体的には、秩父市公式観光ガイドブック、「芝桜の丘」パンフレット、羊山公園お散歩マップ、秩父市の外国版パンフレット（7言語）などがある。

イベント開催時におけるブース出展においても、のぼりや横断幕、ポスターなどを多用し、ジオパーク秩父が視認されるよう演出している〔資料29〕。

E.1.3.2.3. Google マップストリートビュー撮影

今後における新しい取組の一つに、Google社によるストリートビュートレッカーパートナープログラムの実施がある³²。これは、Googleマップにおいて、ストリートビューが存在しない、又は現地へのアクセスがわかりづらいジオサイトについて、当協議会が同社借用機材を使って画像を撮影し、同マップに掲載するものである。これにより、アクセスの際に現地状況を事前に確認をすることができる他、ハンディキャップを持っていることによりジオサイトを訪れることができない人々がバーチャルでジオパーク秩父を楽しむことができる補助ツールとしても機能することを期待している。この事業は、2019年11月に現地撮影を行うことが決定しており、2020年にGoogleマップ上に公開をする予定である。

E.1.3.2.4. 交通系事業者に係る広告事業

〔資料30〕

2014年9月から、秩父鉄道株式会社では、ジオパーク秩父に関するデザインがラッピングされた秩父ジオパークトレインが運行されている³³〔D.5.〕。

2015年3月には、清水運輸株式会社によるデザイントラックにジオパーク秩父バージョンが登場した³⁴。

2015年7月には、西武観光バス株式会社 秩父営業所においても、路線バス1台がジオパーク秩父デザインとなっている。

これらの車両は現在も運行されており、各地でジオパーク秩父のPRに貢献している。

秩父丸通タクシー株式会社 本社ビルの壁（秩父鉄道 秩父駅前）には、大型PR看板を設置しており、2017年にはリニューアルを行っている。

西武鉄道 西武秩父駅構内（特急ホーム隣接）には、大型PR看板を設置しており、同鉄道池袋駅構内（西武口付近）のデジタルサイネージでは、秩父観光PR動画の中でジオパーク秩父の映像が現在も配信されている³⁵。

E.1.3.3. 日本ジオパーク認定の広報について

E.1.3.2. に記述する各種媒体におけるほとんどの事業展開において、ジオパーク秩父ロゴマークの使用と併せて日本ジオパーク公式ロゴマークを使用している。また、講演会の資料などに、常に、ジオパーク秩父が日本ジオパークの認定を受けていることを表示しており、併せて、日本各地には様々なジオパークが存在していることを積極的にPRしている。

拠点施設においては、日本の各ジオパークから提供を受けたパンフレットや大会資料、ポスター、JGN入会・寄付申込書、カレンダーなどを掲出している。

E.1.4. 施設・インフラ整備

E.1.4.1. 拠点施設

³² Google マップ

ストリートビュートレッカーパートナープログラム

³³ 秩父鉄道HP

秩父ジオパークトレイン

³⁴ 清水運輸グループHP

秩父市PRトラックお披露目式

³⁵ おもてなし観光公社HP

西武池袋駅に「ちちぶ」観光PRのためのデジタルサイネージを設置！運営を開始しました。

現在、ジオパーク秩父における公式な拠点施設は13箇所にある〔資料25〕。各拠点施設は、ジオパークにも関連がある自然科学、歴史・民俗、郷土資料など施設によって多種多様であるが、それら常設展示の他にも、スペースの大きさに応じてジオパーク自体のPRスペースを設けている〔E.1.3.1.5.〕。

特に、埼玉県立自然の博物館 においては、常設展示スペースの中でジオパーク秩父、とりわけ、ジオストーリー「日本地質学発祥の地」〔D.1.3.〕を基本として、ジオパーク秩父に来た際には必ず訪れるべき施設として各所で積極的なPRを行っている。

また、おがの化石館 は、国指定天然記念物に指定された「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」の指定露頭のうちの一つである「ようばけ」(ジオサイト28)の近くにある〔D.7.〕。同館では、近くで発掘された世界の奇獣と呼ばれる「パレオパラドキシア」や新種として認定された「チチブサワラ」、当地域内外から産出の化石などを展示し、また、化石レプリカづくりを体験することができるため、小中学生の校外学習にも最適である^{36 37}〔資料31〕。秩父市歴史文化伝承館では、1階交流フロアにおいて ジオパーク秩父に特化したPRスペース を大きく取っている。西武鉄道 西武秩父駅 及び 秩父鉄道 御花畑駅 に非常に近いという好立地にあり、電車などを用いてジオパーク秩父へ訪れた人が現地情報を取得するインフォメーションセンターとしての役割を担っている。また、同館1階には、秩父市観光課窓口があり、ジオパーク担当者が案内をすることができるようになっている。

近年、リニューアルを図った拠点施設の一つが 長瀬町郷土資料館 である。2019年7月に常設展示内容を一新し、長瀬の地形の成立ちから、歴史・文化サイトである「野上下郷石塔婆」について詳細な研究成果が発表されている。宝登山神社(秩父三社の一つ)の参道近くにあり、隣接地には酒蔵(藤崎惣兵衛商店 長瀬蔵)があるなど、多くの観光客が訪れる導線上にあり、埼玉県立自然の博物館 とともに長瀬エリアの重要な拠点施設として位置づけている。

E.1.4.2. 秩父駅前観光案内所

秩父鉄道 秩父駅改札口横に、観光案内所が設けられている。当施設を運営しているのは、構成NPO法人 秩父まるごと博物館 であり、通常の観光案内のほか、ジオツアーガイドを担当するスタッフが ジオパーク秩父に関する情報 を積極的に観光客へ提供している。

E.1.4.3. 現地サイト整備 〔資料32〕

近年に行われた現地サイト整備について、主なものは次のとおりである。整備については、今後も引き続き、現地の状況変化を把握しつつ、支障がある箇所については早急に修繕を行い、必要な場合には、新たに整備を行うこととしている〔D.4.3. E.1.3.1.4.〕。

2015年	現地サイト27箇所	ジオパーク秩父総合看板(新設)
2016年	前原の不整合	駐車場整備 看板設置
	犬木の不整合	駐車場整備 看板設置
	橋立岩陰遺跡	昭和初期設置の歴史的解説看板の保全・補修
	ようばけ	危険防止注意喚起看板設置
2017年	美の山 橋立鍾乳洞 浦山ダム 岩畳 など	現地看板(新設)
	犬木の不整合	通路改修工事
	前原の不整合 付近	立竹木伐採整備
2018年	三峰口の白川橋 安谷川マンガン坑	現地看板(新設)
	札所32番 法性寺	既設看板(多言語版改修)
2019年	三峰口の白川橋	秩父ジオグラビティパーク オープンに伴う周辺整備
	犬木の不整合	見学路整備
	現地サイト27箇所	ジオパーク秩父総合看板(多言語版改修中)

E.1.5. 情報、教育、研究

E.1.5.1. 情報 については、D.4. 及び E.1.3.1.7. に記述する。

³⁶ 小鹿野町観光協会 HP

おがの化石館

³⁷ 小鹿野町 HP①/小鹿野町 HP②

おがの化石館 夏休み応援イベント

E.1.5.2. 教育 については、E.5. に記述する。

E.1.5.3. 研究: 主な研究とその成果については、次のとおりである。

E.1.5.3.1. ジオパーク秩父と化石を使った教育 (2014 吉田 宮城) [資料 33]

E.1.5.3.2. ジオパーク秩父のジオサイト再選定方針 (2018 富田 井上) [資料 34]

E.1.5.3.3. ジオパーク秩父の 34 ジオサイトの評価とその活用 (2019 高木 廣瀬) [資料 35]

E.1.5.3.4. ちちぶ学セミナー 専門講座レポート集 ジオパーク秩父探求コース [資料 36]

E.1.5.3.5. 小鹿野町地域振興協会

化石探索により地域活性化に取り組む団体であり、山中地溝帯（山中白亜系）における恐竜化石を研究している³⁸ [資料 37]。2018 年 11 月、その地層において白亜紀の軟体動物の一種である オウムガイ の雌型化石が発見された³⁹。国内におけるオウムガイの化石の発見例は北海道や岩手県などで数例を見ることができるとのみで、大変貴重なものであり、近い将来、埼玉県側から恐竜の化石が発掘されることが期待されている。

E.1.5.3.6. 埼玉県立自然の博物館 等

自然に関するさまざまな資料を収集し、これらを適切に保管して後世に伝えるとともに、調査研究によって埼玉の自然の生いたちや仕組みを明らかにしている。

また、展示や印刷物、普及事業や学習支援などの博物館活動を通じて、地域の自然に関心を持つ仲間を増やし、地球の未来を担う人材を育成している。

なお、同博物館を含め、当地域における博物館、資料館の状況は 資料 38 のとおりである。

E.2 その他の遺産

E.2.1. (地形・地質以外の) 自然遺産

E.2.1.1. 国際レベル 甲武信生物圏保存地域（甲武信ユネスコエコパーク）^{40 41 42} [資料 39]

2019 年 6 月 19 日登録 関係市町：秩父市 小鹿野町

総面積 1,906.03 km²

核心地域 133.64 km² 主に秩父多摩甲斐国立公園の特別保護地区と第一種特別地域を設定

緩衝地域 708.58 km² 主に秩父多摩甲斐国立公園の第二種、第三種特別地域、普通地域を設定

移行地域 1,063.81 km² 主に秩父多摩甲斐国立公園区域外の居住区を設定

特徴：甲武信ヶ岳、金峰山、雲取山等の日本百名山に挙げられる山々が連なる奥秩父主稜を中心に、これを源流とする荒川、多摩川、笛吹川（富士川）、千曲川（信濃川）流域にまたがる地域をエリアとしている。

この地域は、山岳や森に加えて御岳昇仙峡等の渓谷が、四季折々に彩りを変える日本ので素朴な美しい自然に恵まれており、首都圏近郊にありながら、連続性があり、生物多様性に富む、貴重な生態系が広く保全されている。

古来人々を楽しませてきた民俗芸能が保全・伝承され、山岳・神社信仰にまつわる多様な文化が、今もなお息づいている地域でもある。

山肌を覆う深い森は、首都圏や周辺地域の水源域として古くから守られてきており、現在でも上流域と下流域の水の繋がりを意識して、森づくりや自然保護等に取り組む団体や事業者、地域住民も多い。

国内最大の生産量を誇るモモやブドウなどの果樹や高原野菜における環境配慮型の農業や、森林管理協議会 (Forest Stewardship Council(R)) 認証による林業など、持続的な農林業も広く営まれている。

評価点：水源地としてのエコシステムを保全し、林産物をはじめ天然資源を持続的に活用する努力をしている点が評価されている。

³⁸ 当協議会公式 HP

³⁹ 東京新聞 HP記事

⁴⁰ 環境省 HP

⁴¹ 農林水産省 HP

⁴² 文部科学省 HP

報道発表資料

プレスリリース

お知らせ

恐竜化石発掘隊 活動報告

オウムガイの化石発見！(2018年11月08日)

ユネスコエコパーク候補「甲武信」に関する勧告公表について

「甲武信」のユネスコエコパークへの登録決定について

ユネスコエコパーク候補「甲武信」に関する勧告公表について

人口減少や農業、林業といった地場産業の後継者育成が課題となる中、エコパークが同地域の活性化を担うことが期待されている。

E.2.1.2. 国レベル 秩父多摩甲斐国立公園 ⁴³ 1950年7月10日指定 総面積 1,262.59 km²
関係市町：秩父市 小鹿野町

特徴：森林美と渓谷美であふれる首都圏に最も近い森と渓谷の山岳公園

E.2.1.3. 県レベル 県立自然公園 ⁴⁴

- 1). 埼玉県立長瀬玉淀自然公園 1951年3月9日指定 面積 147.54 km²
関係地区：長瀬町 秩父市 皆野町
- 2). 埼玉県立上武自然公園 1954年3月9日指定 面積 63.78 km²
関係地区：秩父市 皆野町
- 3). 埼玉県立武甲自然公園 1957年7月15日指定 面積 154.62 km²
関係地区：秩父市 横瀬町
- 4). 埼玉県立両神自然公園 1978年3月22日指定 面積 52.83 km²
関係地区：小鹿野町
- 5). 埼玉県立西秩父自然公園 1981年3月24日指定 面積 94.31 km²
関係地区：秩父市 小鹿野町

E.2.1.4. 地元レベル [資料40] [資料41] [資料42] [資料43] [資料44] ⁴⁵

E.2.2. 文化遺産 [資料40] [資料41] [資料42] [資料43] [資料44]

E.2.3. 無形遺産

E.2.3.1. 国際レベル 秩父祭の屋台行事と神楽 ^{46 47}

概要：2016年12月1日、ユネスコ無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に「山・鉦・屋台行事」として登録された。（2009年登録の「京都祇園祭の山鉦行事」と「日立風流物」の拡張）

E.2.3.2. 国レベル

E.2.3.2.1. 秩父祭の屋台行事と神楽 重要無形民俗文化財 1979年2月3日指定

評価点：由来、内容等において我が国民の基盤的な生活文化の特色を示すもので典型的なもの

E.2.3.2.2. 秩父吉田の龍勢 ⁴⁸ 重要無形民俗文化財 2018年3月8日指定

評価点：由来、内容等において我が国民の基盤的な生活文化の特色を示すもので典型的なもの

E.2.3.3. 県レベル・地元レベル [資料40] [資料41] [資料42] [資料43] [資料44]

E.2.4. 気候変動および自然災害への関わり

当地域には、火山がなく、また、洪水予報河川の指定に関係する市町はない。そのため、現状においては幸いなことに、気候変動又は自然災害に関連する自然遺産が抱える問題は生じていないものと認識している。

ただし、気候変動に伴い、短時間強雨や大雨の強度や頻度の増加による土砂災害又は河川の水位上昇が発生することを懸念している。中山間地域にある当地域には、土砂災害の危険がある場所が非常に多く（秩父市1,000箇所以上）あり⁴⁹、ジオパークと防災との密接な関係が欠かせないものと考えている[E.10.]。

なお、当地域において発生した自然災害について、その経験を伝える碑がある^{50 51}。

E.3. 管理運営

E.3.1. ジオパークの管理運営体制

⁴³ 環境省 HP 秩父多摩甲斐国立公園
⁴⁴ 埼玉県 HP 埼玉県の自然公園
⁴⁵ 資料40：秩父市 資料41：横瀬町 資料42：皆野町 資料43：長瀬町 資料44：小鹿野町
⁴⁶ 文化遺産オンライン 山・鉦・屋台行事 無形文化遺産
⁴⁷ 文化遺産オンライン 秩父祭の屋台行事と神楽 重要無形民俗文化財
⁴⁸ 文化遺産オンライン 秩父吉田の龍勢 重要無形民俗文化財
⁴⁹ 埼玉県 HP 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域指定箇所
⁵⁰ 当協議会公式 HP ジオサイトを探す 寛保洪水位磨崖標
⁵¹ 小鹿野町立三田川中学校_学校だより 埼玉の砂防発祥地 [2016年 閉校]

当協議会は、ジオパーク秩父に係る区域にある 自治体 及び その教育委員会 並びに 埼玉県の機関、観光推進事業者、特定非営利活動法人（NPO 法人）、青年会議所、商工会議所、商工会 及び 鉄道事業者からなる 30 団体の長（協議会員）で組織し、ジオパーク秩父に係る事業を運営している。また、その下部組織として運営委員会を設け、具体的な運営について協議を行っている。運営委員会は、協議会員が推薦した委員 26 名をもって組織し、事業に係る実績を分析し、その結果を次期計画に反映させるよう検討を行っている。さらには、運営委員会の下部に企画運営部会を設置し、実務者レベルで、極め細やかに、事業の実施について検討を行うことができるようにしている〔D.3. 資料45〕。

E.3.2. スタッフの雇用等について

当協議会事務局には、事務局長、事務員 及び 上席推進員 が常勤で配置されている。特に、上席推進員は、科学者であり、併せて、ジオガイドツアーを企画し、運営している。

なお、企画運営部会が事務局における運営を補完している〔E.3.1.〕。

E.3.3. 管理運営体制における女性の役割（すべてのレベルにおける男女の雇用機会均等について）

当協議会会員 30 名中、女性は 1 名であり、運営委員 26 名中、女性は 7 名である。さらには、運営委員から選出されている企画運営部会員 9 名中、女性は 3 名である。事務局には女性職員はいない。このように男女が共同で本協議会に係る運営に参画している。ただし、当協議会との間に雇用関係は介在していない。

E.3.4. 管理運営における地域コミュニティの代表者、先住民の役割

当協議会を構成する団体のうち特定非営利活動法人 5 団体が地域コミュニティの代表者である。それらのうち、4 団体（秩父まるごと博物館 ちちぶまちづくり工房 秩父の環境を考える会 もりと水の源流文化塾）は、ちちぶ案内人倶楽部〔D.5.〕に加盟しており、ジオパーク秩父における ガイド 及び ガイド養成 の役割を担っている〔E.6. 資料46〕。

E.3.5. 予算・財政状況

当協議会に係る予算については、収入では、主に、ちちぶ定住自立圏形成協定の実現に向けて具体的な取組を定めた共生ビジョン〔E.7.1.1.〕に基づく負担金 並びに 事業収入によるものであり、これを、事務局費 及び 事業費 への支出に充てている。

秩父まるごとジオパーク推進協議会 会計 決算（予算）の状況

【収入】

（単位：円）

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019（予算）
負担金	4,000,000	4,000,000	9,800,000	5,500,000	6,050,000	4,700,000
事業収入	2,749,490	1,132,800	1,104,000	1,352,638	1,105,800	1,100,000
その他	1,172,635	394,353	838,118	1,237,537	2,658,750	2,440,000
計	7,922,125	5,527,153	11,742,118	8,090,175	9,814,550	8,240,000

【支出】

（単位：円）

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019（予算）
事務局費	2,343,679	2,487,335	2,723,544	2,576,120	2,567,373	3,485,000
事業費	5,334,816	2,490,450	7,834,168	2,912,666	4,813,831	4,600,000
予備費	0	0	0	0	0	155,000
計	7,678,495	4,977,785	10,557,712	5,488,786	7,381,204	8,240,000

E.3.6. 管理運営計画〔E.3.7.〕

E.3.7. マーケティング戦略

当協議会における 管理運営計画 は、ちちぶ定住自立圏形成協定の実現に向けて具体的な取組を定めた共生ビジョン によるものとしており、同じく マーケティング戦略 も、そこに表されている〔E.7.1.1.〕。

また、おもてなし観光公社では、顧客分析調査を行っており、当協議会においても有効な資料として取り扱っている〔資料47 資料48〕。

E.4. 重複（オーバーラッピング）

当地域におけるジオサイトと一部又は全部が重複するサイトは、概ね次のとおりである。

E.4.1. 甲武信生物圏保存地域（甲武信ユネスコエコパーク） [ユネスコ登録サイト]

概要については、E.2.1.1. に記述する。

協力関係については、当該地域が2019年6月19日に登録されたもので、今後の活動が明確になっていないため、具体的なものはない。しかしながら、ユネスコエコパークの機能の一つには「経済と社会の発展」がうたわれており、ジオパークの定義の一つにも「ジオツーリズムなどを通じて、地域の持続可能な社会・経済発展を育成する」とうたわれている。このことから、エコパークにおける活動とジオパークにおける活動には重複する面がある。当協議会としては、近い将来において、それぞれの活動が効果的に発揮されるためにも、ツーリズムや教育などの分野で連携した取組を築いていく必要があることを認識している。

E.4.2. 秩父多摩甲斐国立公園 [国指定の国立公園]

概要については、E.2.1.2. に記述する。協力関係については、E.4.1.と同様に考えている。

E.4.3. 埼玉県自然環境保全地域⁵²

埼玉県では、埼玉県自然環境保全条例に基づき、すぐれた天然林や特異な地形・地質、貴重な動植物の自生地や生息地などの良好な自然環境を保全するため、県自然環境保全地域を16地域で指定している。

それらのうち、当地域におけるジオサイトと重複するものは、次のとおりである。

- | | | | | | | | | |
|--------------|-----------|----------|------------|---------------|---|---|---|---|
| 1). 小鹿野町滝前 | 関係地区：小鹿野町 | ジオサイト 34 | 丸 | 神 | の | 滝 | | |
| 2). 小鹿野町般若 | 関係地区：小鹿野町 | ジオサイト 29 | 札所 32 | 番法性寺のお船岩とタフォニ | | | | |
| 3). 小鹿野町ようばけ | 関係地区：小鹿野町 | ジオサイト 28 | よ | う | ば | け | | |
| 4). 秩父市白砂 | 関係地区：秩父市 | ジオサイト 25 | 白砂公園の白沙砂岩層 | | | | | |
| 5). 小鹿野町尾の内 | 関係地区：小鹿野町 | ジオサイト 32 | 皆 | 本 | 沢 | の | 礫 | 岩 |

E.5. 教育活動

教育プログラムを実施する者は、学校、埼玉県立自然の博物館、公民館、秩父市歴史文化伝承館その他教育機関とさまざまであるが、当協議会は、主に、次に記述する分野で協力をしている。

E.5.1. 学校教育

当地域内における学校教育としては、当協議会の構成団体である1市4町の教育委員会が中心となり、小学校 中学校では、校内外においてジオパーク学習を継続的に実施しており、それらのうち一部の学校においては、当協議会と協働している。

特に、2016年4月に小鹿野町内にあった4校の中学校を統合して誕生した 町立小鹿野中学校 では、統合当初から2年生「総合的な学習の時間」において郷土学習の一環としてジオパーク学習に力を入れている。現在、1学年の生徒数は100名程度であるが、2016年度は「歌舞伎学習班」「森林学習班」「自然・文化学習班」の3班体制でスタートし、2018年度からは「文学研究班」を設け、地域の自然や歴史文化の学習を行っている。

ジオパーク学習を主としているのは、「自然・文化学習班」と宮沢賢治を中心とした学習を行う「文学研究班」で取り組んでいる。

小鹿野町には、2016年3月に国指定天然記念物に指定された「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」の指定露頭のうち2箇所が所在し、指定化石のうち3点が町内から産出している。また、1916（大正5）年には盛岡高等農林学校2年在学時の宮沢賢治が地質巡検に訪れている。このように、国天然記念物の指定を受けている地質資源が身近に存在し、古くから地質巡検のために多くの研究者や学生が訪れている魅力ある地域であることを子供達に伝え、ジオパーク学習を通じて地域の魅力の再発見を行っている。

具体的な学習として、おがの化石館 や 各露頭、小鹿野町内に4箇所建てられている宮沢賢治等の歌碑などの現地を見学し、学習の成果を毎年10月下旬に行われている文化祭にて発表している。

⁵² 埼玉県 HP

さらには、教職員研修に対する支援も着実に実施しており、これらに併せて、地域外の学校や教育機関に対するジオパーク学習も実施し、その拡大を図っている。

学校教育におけるジオパーク学習の実施状況

(単位: 件)

年度	2015	2016	2017	2018	2019 (予定)
地域内_学校	7	13	20	22	15
地域内_教職員	1	1	2	0	2
地域外_学校	5	2	1	9	4
地域外_教職員	3	1	1	3	3

教育教材に関しては、DVDやガイドブックを作成しており、2016年には、埼玉県下で使われる中学理科の副教材「理科資料集」が刊行され、国天然記念物を含むジオパーク秩父の内容が掲載された。2019年には、秩父市教育委員会から、社会科副読本「ちちぶ」の改訂に合わせ、ジオパーク秩父に関連する内容を掲載する意向が示されるなど、学校教育の現場において広がりが見られている。

このように、学校教育におけるジオパーク学習のさらなる推進と定着を図っている。

E.5.2. 生涯学習

生涯学習としては、主なものとして、ちちぶ定住自立圏〔E.7.1.1.〕事業であるちちぶ学セミナー専門講座 ジオパーク探求コース や 小鹿野ときめき生活推進大学 において講義及び調査研究が行われて〔E.1.3.1.1. E.1.5.3.4. E.8.〕、研究結果の一部は、拠点施設(山里自然館 埼玉県立自然の博物館)において展示され、その活用を図っている〔資料49〕。

これらの他、公民館が中心となり、当地域において自主的なジオパーク学習行われており、幅広い世代の多くの方がジオパークを学んでいる〔資料50〕。

また、放送大学埼玉学習センターでは、埼玉ふるさと学の分野において、「秩父から学ぶ郷土学－自然と風土」と題するジオパーク秩父に関連した面接授業が展開されている〔資料51〕。

E.6. 持続可能なツーリズム

ジオツーリズムを持続させるうえで、構成NPO法人〔D.5.〕が中心となってガイド養成を行っている〔E.3.4. 資料46〕。これにより、こどもから大人までの多世代の生涯学習の場につながる身近な観光として、積極的にジオツアーを開催し、又は別の主催者の要請に応じてガイドを行っている。

最近では、小鹿野町地域振興協会が化石発掘体験ツアーを開催するにあたり、旅行業者である錦トラベルが新たに参画したことにより、地域外からの参加者(親子)が増え、ジオパーク秩父における体験からジオパークに関心を持つ動機づけとなっている⁵³〔D.2.〕

このように、ジオガイドツアーの開催数(依頼数)が着実に伸びていることにより、多種多様なニーズに合わせたツアーコースが充実してきた〔D.2. D.5. D.6. D.7. D.8.〕。

ガイド養成・ジオガイドツアーの実施状況(学校教育に係るものを除く) (単位: 件)

年度	2015	2016	2017	2018	2019 (予定)
ガイド養成	4	6	3	4	5
ジオガイドツアー	24	28	41	42	36

また、最近では、インバウンド対応を図るべく、中国人視点からのジオパーク秩父検証事業〔E.1.3.1.4. E.7.3.〕や秩父市雇用創造協議会と連携して外国人モニターツアーを実施するなど、外国人ジオツアーの本格導入を目指すこととしている〔資料52〕。

なお、2019年7月には、中国山西省から青少年日本研学旅行の行程の中で、13人の児童が秩父市立大田小学校の児童と交流を図るとともに、ジオツアー学習を楽しんでいる〔資料53〕。

⁵³ 小鹿野町地域振興協会 facebook

また、現在、観光庁と日本政府観光局では、欧米豪市場からの訪日促進のための「Enjoy my Japan グローバルキャンペーン」を展開している。2019年、関東運輸局では、DMO⁵⁴であるおもてなし観光公社等と連携して、訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業を展開する。具体的には、海・山岳・森林・河川など地域ごとに特色のある豊富な自然を有し、当該自然風土を活用して、英国をはじめとする欧州市場の訪日外客誘致に意欲的である3つのDMOと連携し、新たなコンテンツの創出又は既存のコンテンツの磨き上げを行うものである〔資料54〕。これにより、ジオパーク秩父におけるジオサイトが取り上げられることになり、世界に向けてジオパークを含めた当地域の魅力を伝える絶好の機会となるため、インバウンドに対応したジオツアーの盛り上がりを期待している〔E.1.3.1.4.〕。

ガイド養成の分野では、おもてなし観光公社では、2019年6月に、外国人に向けた観光環境を整備することをビジョンに据えて、arce (アルセ) ~Chichibu International Guide~を創出した。ここでは、インバウンドガイドを育成することとしており、ジオパーク及びジオパーク秩父を含めたガイド養成研修を行うことになっている〔資料55〕。これにより、世界に向けてジオパークを含めた当地域の魅力を体感により伝えるという新たな事業展開を図ることとしている〔E.1.3.2.4.〕。

併せて、持続可能なツーリズムを推進するうえで、公式パンフレットを作成し、これに連携して、公式HPの大規模リニューアルを行っている〔D.4.〕。これらの各広報媒体では、ジオサイト(2018年)34箇所の情報、サブテーマ及びジオストーリーの内容(2019年)〔D.1.〕などを掲載しており、一般の方にも広く理解され、ジオパーク秩父がより身近となるような広報活動を展開している。

さらに、各広報媒体による活動の他、テレビなどメディアからの取材に積極的に応じるとともに〔E.1.3.1.6.〕、観光をはじめ各種イベントの機会を捉えて広報を行っている⁵⁵。特に、ジオパーク秩父に関係する機関の職員が、観光等に係る営業で現地に赴く際には、併せてジオパーク秩父に関する広報を行っている〔E.1.3.1.2.〕。

E.6.1. ジオパーク秩父への年間来訪者数 (入館者数・入場者数) (単位:人)

年度	2014	2015	2016	2017	2018
埼玉県立自然の博物館	66,279	62,793	81,889	94,810	100,788
うち 無料 (こども)	31,618	30,730	38,856	42,540	45,767
うち 有料	33,661	32,063	43,033	34,357	55,021
おがの化石館	5,134	5,858	7,564	7,441	8,191
うち こども	1,676	2,152	2,372	2,482	2,749
うち 大人	3,458	3,706	5,192	4,959	5,442
秩父ジオグラビティパーク	-	-	-	累計	5,471

E.6.2. ジオパーク秩父への年間来訪者数 (おもてなし観光公社 推計) (単位:人)

年度	2014	2015	2016	2017	2018
年間来訪者数	9,093,000	8,283,000	9,582,000	9,825,000	9,654,000
うち 外国人数	-	96,000	122,000	132,000	131,000

E.7. 持続可能な開発とパートナーシップ

E.7.1. 持続可能な開発ポリシー

E.7.1.1. ちちぶ定住自立圏構想における各種取組と持続可能な開発目標 (SDGs) との親和性

⁵⁴ DMO: 地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人 Destination Management/Marketing Organization

⁵⁵ 当協議会公式HP 「浦山ダムの内覧会～大切な水を知る一日にしよう～」が開催されました!

ちちぶ定住自立圏⁵⁶とは、中心市である秩父市と横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町の4町がともに手を取り合い、安心して暮らせる地域を作るため、2008年に総務省から定住自立圏構想の先行実施団体として全国22圏域の一つに選定されたものである。2009年には、5分野8項目（医療、情報、交流、水道、人材育成等）について主要事業等を定めた共生ビジョンが策定され、新しい広域行政の枠組みの中で、地域全体の暮らしに必要な都市機能や生活機能を充実させ、地方創生と人口定住を目指す各種取組が進められている。

第2次共生ビジョン（2015年度から2019年度まで）では、産業振興における政策（ポリシー）協定項目として「秩父まるごとジオパークの推進」が位置付けられている⁵⁷〔資料56〕。

現在、第3次共生ビジョンの策定に向けた準備が行われており、そこにおいても同様な位置付けがなされるものと考えている。その協定内容は、次のとおりである。

秩父の地質資源等を活かした秩父まるごとジオパーク構想を推進するために、ジオパークの活用方策について、協議会を設置して計画を策定するとともに、ジオサイトを結ぶ散策コースの設定などジオツーリズムの整備を行います。

このちちぶ定住自立圏構想が推進する各分野において、さらには、秩父市が推進し、安心・安全なまちづくりを目指して国際認証を受けているセーフコミュニティの取組^{58 59}〔E.10.〕においても、SDGsの17の目標に当てはまることから、当協議会は、ジオパーク秩父における各種取組が、SDGsが目指す理念にも合致するものと認識している。

今後、国内で推進している先進ジオパークにおける事業を参考として、より高度に洗練された事業を展開することを目指すことにしている。

E.7.1.2. 知的観光、体験観光としてのジオパーク

当地域がジオパークになってから8年が経過しつつあり、ジオパーク秩父が数ある秩父観光の選択肢の一つとして認知されるようになったことは、地域全体の観光振興政策に大きな影響を与えている。

近年、観光地秩父は再定義の時代を迎えつつある。各メディアが当地域を盛んに取り上げ、様々な世代の観光客が、年間を通じて、豊かな自然や古い歴史や文化が残り、首都圏からのアクセスも良く気軽に行ける観光地として当地域を訪れるようになった。秩父三社、秩父札所三十四ヶ所観音霊場をはじめとする神社仏閣、明治から昭和にかけての古い建築が残るレトロな街並み、羊山公園芝桜の丘や天空のポピーなど季節毎に咲き誇る花々、秩父夜祭に代表される数多くの祭り、そして、アニメの聖地巡礼等々、さまざまな要素が織り交ざりながら、その多種多様な秩父の魅力は多くの人々の心を捉えている。

観光地としての認知が高まるにつれて、何度も当地域を訪れる秩父ファンが増えている〔資料57〕。秩父ファンは、通り一遍の観光ではなく、より深く秩父を知り、楽しみたいと考えている。これについて提案する新たな秩父の楽しみ方が、知的観光、体験観光としてのジオパーク秩父である。今まで表面的に見えていた秩父のあらゆる事象が、そもそもの大地の成立ちと深く結びついていることを知ることで知的好奇心が満たされ、自らの体験をもってその土地や人々と繋がり、感動を得ることができるのがジオパークならではの魅力であり、秩父観光の決定版としてこれからも広くPRを図ることとしている〔D.5.〕。

E.7.1.3. 秩父伝統の保全と活用の形とジオパーク

既存の観光資源に付加価値をつけ、さらに新たな資源を掘り起こすことのみならず、ジオパーク秩父を知り、ジオパーク秩父に触れた地域住民、観光関係者に再認識させることになったのが、観光資源の持続可能な活用と保全を両立させることが地域を継続的に潤し、豊かにしていくという基本的な理念である。活用と保全という考え方は、古来、当地域が伝統的に守ってきた地域振興の形である。数多くの文化財、自然遺産は、地域の宝であり、それ自体が秩父という土地を価値づけていることは言うまでもない。鎌倉時代に成立

⁵⁶ 秩父市 HP

⁵⁷ 秩父市 HP

⁵⁸ 秩父市 HP

⁵⁹ 秩父市 HP

秩父定住自立圏

ちちぶ定住自立圏 第2次共生ビジョンを策定しました

セーフコミュニティ

みんなでつくりよう！セーフコミュニティちちぶ

し、江戸時代に一大巡礼ブームを巻き起こした秩父札所、同じく江戸時代に絹織物の隆盛とともに発展した秩父夜祭などが例に挙げられるように、その伝統やあるべき姿を守り、伝えていくこと自体が、地域を潤す糧となることは、世代を超えて秩父の多くの人々に深く根差した考え方である。ジオパークは、これと考えを同じくするものであり、当地域に自然と受け入れられたのはそのためであると捉えている。

本来の地域振興のあるべき姿を、ジオパーク活動を通じて、示唆すること自体がジオパーク秩父としての包括的な成果であり、その具体的な活動の広がりには本項以外で述べているところである。活用と保全が両輪となった多様な取組こそ、これからも当地域が進めていくべき姿であると、現在に至るまでの8年間で多くの人々に伝えたことは大きい。

E.7.2. パートナーシップ

当協議会では、公式パンフレットにおいて CHiChIBU iNFORMATiON のコーナーを設け、会場産品を掲載するとともに、QRコードを用いて地域の観光（宿泊）情報を容易に入手することができるようにしている〔D.4.1. E.1.3.1.7.〕。

また、BIGLOBE 旅行サイト ジオパーク特集が構築されたことに伴い⁶⁰、すでに当協議会 HP にリンクしており、宿泊業者との連携をより深めるものとなることを期待している。

ジオパーク秩父に係る活動は、機会を捉えて、ありとあらゆる民間団体との協力体制を築きながら実施されている。現在、当協議会との正式なパートナーシップ契約を締結している事例はないため、契約とは別の具体的な例について、次に記述する。

E.7.2.1. 秩父ジオグラビティパーク

秩父鉄道三峰口駅（秩父市）周辺には、眺望サイトである三峰口の白川橋〔E.1.3.1.4.〕があるが、このサイト内で展開する体験型観光施設 秩父ジオグラビティパーク が2019年3月にオープンした⁶¹。事業を実施しているのが、埼玉県、秩父市、秩父鉄道、地元関係者などで組織された 秩父市三峰口駅周辺荒川利用調整協議会（事務局：秩父市）であり⁶²、当協議会事務局が委員として参画している。

この施設は、荒川渓谷の景観美を活用して、バンジージャンプに代表される重力を活用したグラビティスポーツを楽しむもので、スリル満点でジオを体感できる全く新しいアクティビティ施設 となっている。現在は、安全帯（ハーネス）を着けて渡る吊り橋「キャニオンウォーク」やジップライン「キャニオンフライ」、飛び込み台から急降下して荒川の水面スレスレを大きくスイングする巨大空中ブランコ「キャニオンスイング」の3つの施設を楽しむことができる。運営会社は、地元本社を置く Geo Gravity Park Chichibu 株式会社で、スタッフは、国内外のアドベンチャー施設において豊富な経験及び実績を有している。

当地の上流側は、秩父山地の険しいV字谷が刻まれ、下流側は、かつて古秩父湾であった秩父盆地が広がっており、山地と盆地の境として、ジオガイドツアーの際に、頻りに訪れる場所である〔E.1.1.1.1.〕。歴史的にも産業や交通の要衝であり、施設は、昭和4年に竣工した歴史ある旧白川橋の橋台を再利用して作られている。三峰口駅周辺は、2007年に秩父鉄道株式会社が三峰ロープウェイを廃止した後、衰退の一途を辿っていたが、当ジオサイト 及び 秩父ジオグラビティパーク が地域活性化の一翼を担う施設として大いに期待されることになり、当協議会としても、引き続き、パートナーシップを保っていくこととしている。

E.7.2.2. 秩父雲海 に関連する事業

秩父盆地の地形と気候により生み出される雲海は、約1,700万年前から約1,500万年前までに存在した古秩父湾を彷彿させる 秩父雲海 として、インターネットをきっかけにここ数年で急速にジオパーク秩父の見どころとなったものの一つである。雲海スポットと

⁶⁰ BIGLOBE 旅行サイト

BIGLOBE 旅行 ジオパーク特集

⁶¹ 秩父ジオグラビティパーク HP

〔トップページ〕

⁶² 秩父市 HP

「秩父ジオグラビティパーク」をご利用ください！

なっている場所は、全てジオパーク秩父における ジオサイト 又は 眺望サイト となっており、当協議会や関係市町は、民間企業との連携を図りながら積極的なPRを図っている⁶³。

西武鉄道株式会社では、同社 Web 上で 秩父地域の雲海情報・発生率 を公開し⁶⁴、2015年8月から「金よる発で行く秩父絶景ツアー」を実施してきた⁶⁵。また、2017年から現在まで展開しているキャンペーン「DIVE! CHICHIBU」では、「深く知るほど、秩父はおもしろくなる」のキャッチコピーをもとに、「秩父湾編」に続き、「雲海編」を展開している⁶⁶ [D.5.]。また、春と秋の雲海発生率が高い時期には、西武鉄道株式会社 と 西武観光バス株式会社 両社の協力により、早朝に、西武秩父駅から出発する 雲海バス が運行されている。⁶⁷

秩父鉄道株式会社においても、雲海シーズンには、宝登山ロープウェイ の早朝運転を行い、同鉄道 長瀨駅からロープウェイ山麓駅まで無料シャトルバスを運行⁶⁸ しており、宝登山から雲海観賞をする訪問客から好評を博している。

皆野町 美の山公園 近くにあるホテル いこいの村美の山ヘリテイジ では、「満点の星空と雲海の宿」⁶⁹ と称してPRしており、ホテル独自に雲海ツアーも実施している。

雲海ツアーについては、その他旅行事業者（近畿日本ツーリストなど）も実施している^{70 71}。

E.7.2.3. 地場産品・ジオ関連グッズ に関連する事業

E.7.2.3.1. 当協議会 及び 構成団体 における取組

当協議会で製作・販売しているグッズには、ジオカード、クリアファイル、缶バッジ、ポスターなどがあり、拠点施設における通常販売の他、ジオツアーやイベントなどで頻繁に活用されている。

構成団体においても様々なグッズを展開しており、埼玉県立自然の博物館 では、パレオパラドキシア大野原標本の 3D ペーパーパズル が好評を得ている。最近では、博物館キャラクターの LINE スタンプ を展開している⁷²。おがの化石館 では、パレオパラドキシアのオリジナルキャラクターの トートバッグ や 小物 などを販売している。秩父鉄道株式会社では、同社のキャラクターがパレオパラドキシアの パレオくん パレナちゃん であり、様々なグッズが展開されている。

E.7.2.3.2. 民間企業（団体）における取組

小鹿野町にある てごせ〜の店 では、秩父ジオクッキー として、パレオパラドキシア や チブサワラ などをかたどった可愛いクッキーを各所で販売している [資料58]。

また、秩父の銘酒 秩父錦 を醸造する老舗の酒 株式会社矢尾本店 では、にがり酒を雲海に見立てた商品「秩父の雲海」を2018年から販売している⁷³。

最近では、秩父市雇用創造協議会が2019年8月に開催した成果発表会において、新たに開発したジオスイーツ「ちちぶ雲海ものがたり」が報道陣、関係者らに披露され、今後の商品化に向けて期待を呼んでいる^{74 75}。

地元のお母さんらが参加している ジョグルメの会 では、秩父で昔から畑仕事、山仕事の合間に手軽に食べることができる郷土食 小昼飯(こぢゅうはん)などをジオツアーなどで振る舞い、食を通じた人と人との触れ合いがツアー参加者に好評を得ている [E.7.3.]

63	秩父観光ナビ HP	絶景！！秩父の雲海（雲海カメラ）
64	西武鉄道 HP	秩父地域の雲海情報・発生率（ただし、2017年12月をもって、発生率を更新していない）
65	西武鉄道 HP	金よる発で行く 秩父絶景ツアー
66	西武鉄道 HP	DIVE! CHICHIBU 雲海編
67	秩父観光ナビ HP	今年も「雲海バス」が始まります！
68	宝登山ロープウェイ HP	雲海観賞便のお知らせ
69	いこいの村美の山ヘリテイジ HP	〔トップページ〕
70	近畿日本ツーリスト HP	秩父雲海&夜景・星空 観賞プラン
71	秩父観光ナビ HP	雲海ツアーにお邪魔してきました！
72	埼玉県立自然の博物館 HP	LINE スタンプ
73	矢尾百貨店 HP	「秩父の雲海」 純米濁り酒
74	秩父市雇用創造協議会 HP	《ちちぶ雲海ものがたり》8月8日成果物公開セミナー
75	秩父市雇用創造協議会 HP	《ちちぶ雲海ものがたり》商品紹介

これらの他、河成段丘のやせた土壌が生み出した郷土食の 蕎麦 や、急峻な秩父山地に多く残るカエデの樹液から作る 国産メープルを使った商品 など、ジオストーリー〔D.1.3.〕に基づいた地元グルメや商品はジオツアーなどで好評であり、今後もこれらの地場産品をジオパーク秩父において効果的にPR していくことで、ジオパークによる地域振興を積極的に推進することとしている。

E.7.3. 地元コミュニティや先住民族の全面的かつ効果的な参加

地域コミュニティの代表者については、E.3.4. に記述する。

なお、ジオパーク秩父エリア内においていわゆる先住民族は存在していないが、盆地、山地に囲まれて育まれた独自の風土、民俗、そして信仰は、それ自体がジオパーク秩父の重要な要素となっており、それらを守り伝える地元住民の参画や協力はジオパーク秩父の魅力を一層奥深いものにしていく。

その一例が、地域住民が主体となる自治会や公民館において行われるジオパーク活動である。秩父市蒔田地区⁷⁶ は、はるか昔に当地を流れる川の上流が切断され、その後深い浸食がなされなかったため水利が良く、当地域では珍しい米どころとして成立してきた場所である⁷⁷。当地の歴史や文化、祭り、くらしの形がすべて土地の成り立ちと深くかかわってきたというジオパークの視点は、中蒔田町会 及び 田村町会⁷⁸ における地域住民の大きな関心を産み、今では毎年恒例で講演会が開催されている〔D.2. D.8.2. 資料59〕。その結果、住民の中には、埼玉県立自然の博物館 が主催する企画展〔E.1.3.1.5.〕へ参加をする方も出てきている。なお、この企画展の開催に当たり、当協議会も協力をしている。

また、地域に根差した古くからの信仰の形も、ジオパーク秩父の魅力を際立たせる重要な要素となっている。秩父三十四ヶ所観音霊場を統括する 秩父札所連合会 から、ジオツアーにおける札所訪問 や 現地看板の整備 などに対して多大な協力を得ている。近年の具体例では、2019年2月、秩父市長（当協議会長）立会いのもと、秩父札所連合会 と 臨汾仏教協会（中国山西省）との友好協定が締結されたことを機に、中国人視点からのジオパーク秩父検証事業 が行われた。その行程では、札所 32 番 法性寺（ジオサイト）への訪問や、ジオグルメの会 による郷土料理の提供など、ジオと信仰を通じて国際交流を図ることができた⁷⁹〔E.1.3.1.4. E.6. E7.2.3.2〕。

今後も、郷土研究を積極的に行う地域住民や各種団体との繋がりを重要視し、当地域のあらゆる姿をジオパーク秩父の文脈の中で幅広く解釈していきながら、さらなる魅力発掘ができるよう努めていくこととしている。

E.8. ネットワーク活動

当協議会は、これまでに時期を捉えて積極的に、多くの他のジオパークと交流を図ってきた。他のジオパークや市町村、議会、各種団体の視察受入れも多く、最近では、徳島県三好市、高知県土佐清水市、大阪府茨木市などからの視察対応（2018年）を行っている。

他のジオパークとの視察や交流も行っており、最近では、下仁田応援団の訪問を受入れ（2016年）、ちちぶ学セミナー〔E.1.3.1.1. E.5.2.〕 専門講座 ジオパーク探求コース研究生 が 浅間山北麓ジオパーク にて視察研修を行っている（2018年）〔資料60〕。また、2018年12月には、土佐清水ジオパーク推進室（当時）に、展示を目的として 秩父鉱山の鉱物 を提供している⁸⁰。

また、JGN が主催する 全国大会、研修会、関東大会、各種会議などには、毎回出席をしており、ネットワーク活動に積極的に参加してきた。2016年には、ジオ女@Tokyo に参加し

⁷⁶ google マップ 秩父市蒔田〔中蒔田町会は、蒔田の中央に位置する。〕
⁷⁷ youtube 秩父の段丘地形と暮らしを探る
⁷⁸ google マップ 秩父市田村〔田村町会は、蒔田地区に隣接している。〕
⁷⁹ 当協議会公式 facebook ジオグルメの会
⁸⁰ 土佐清水ジオパーク推進協議会 HP 秩父鉱山の鉱物展、はじまる

て交流や情報交換を図ったほか、2017年10月には、事務局職員が三笠ジオパーク再認定審査に審査員として参加している。

これらの活動により、相互に理解し、情報を共有することができている。

今後は、当協議会構成団体の枠組みを超えて、民間レベルにおいても地域を超えた交流を図ることができるよう、幅広いネットワークを構築することに寄与したい。

ネットワーク活動の実施状況 (単位: 件)

年度	2015	2016	2017	2018	2019 (予定)
視察受入れ	2	4	4	3	-
視察訪問	1	0	1	2	-
JGN主催事業参加	16	20	14	11	10

E.9. 地質鉱物資源の販売 [E.1.1.2.]

現在、ジオパーク秩父エリア内では、法的に認可されている鉱業以外の一般的な鉱物資源の販売はされていないことを確認している。

これに関連して、ジオツアーなどで化石や鉱物採取体験プログラムを実施する場合には、あくまでも個人が楽しむ採取体験との位置づけをしておき、このようなプログラムが事業としての採取を推進させること又は販売に結び付くことのないよう留意している。

今後も引き続き、新規に鉱物資源の販売事例が発生しないよう、関係団体の協力を仰ぎながら情報収集と監視を行うこととしている。

E.10. 防災・安全対策、防災教育、災害対応

国土交通省は、2018年に発生した崖崩れや地滑りなどの土砂災害は、茨城、栃木、東京を除く44の道府県で3,451件に上ったと発表した。これは集計を始めた1982年以降で最も多い数字となる。当地域は、比較的災害が少ない所とされているが、山間地においては大雨や台風に伴う崖崩れなどの土砂災害が時折発生していることから、当然のこととして常に、防災に対する意識を持つ必要があることを認識している [E.2.4.]。

防災・安全対策及び災害対応については、当協議会においてはこれを定めていないが、第一義的には、各市町が定める防災計画によるものとしている^{81 82 83 84 85 86 87 88 89}。

これにより、当地域において想定し得るすべての災害(土砂 風水 大雪 地震)に対応することができるものとする。

防災教育については、当協議会としては、具体的には、毎年9月に秩父市全体で行われる防災訓練において、土砂災害警戒区域等に一部が含まれる影森地区の住民に、ジオパークの視点による防災講義を行っている⁹⁰ [資料61]。地震発生のメカニズム(2018年)や秩父の大地を形成する地層や当該地区に存在する地層(2019年)などを解説することにより、地域住民に防災意識を醸成させると同時に、ジオパーク秩父への理解を向上させる場として有効に機能している。

今後は、時機を捉えて、この教育活動を拡大していくとともに、秩父市が推進し、国際的な認証を受けているセーフコミュニティ事業 [E.7.1.1.] との連携や、小学校 中学校におけ

81 秩父市 HP 秩父市地域防災計画
 82 秩父市 HP 秩父市災害時安全対応マニュアル(土砂災害・水害ハザードマップ)
 83 横瀬町 HP 横瀬町地域防災企画
 84 横瀬町 HP 横瀬町土砂災害ハザードマップ
 85 皆野町 HP 皆野町地域防災計画
 86 皆野町 HP 皆野町土砂災害ハザードマップ
 87 長瀬町 HP 長瀬町地域防災計画
 88 長瀬町 HP 長瀬町土砂災害ハザードマップ
 89 小鹿野町 HP 小鹿野町地域防災計画 小鹿野町土砂災害ハザードマップ
 90 当協議会公式 HP 「ジオ防災講座」を行いました!

る防災教育分野で ジオパークの要素 が活用されるよう、関係機関と調整を図ることとしている。

F. その他

当協議会は、ジオパーク秩父に係る活動 をより一層推進するうえで、当該活動に関するすべての分野において解消しなければならない問題が山積していることを認識している。

それらのなかで、現状において顕在している懸案事項として、次の5項目を掲げる。

F.1. ジオストーリーに関連づけたジオツアー のさらなる啓発と普及 [D.8.1.]

F.2. ジオパーク秩父保存活用整備計画 の策定に向けた取組 [E.1.1.2. E.5. E.6. E.7.]

F.3. ジオパーク秩父に特化した拠点施設を設置すること の可能性 [E.1.4.1.]

F.4. 地域コミュニティレベルにおけるネットワーク間交流（協力） の充実 [E.8.]

F.5. ジオパークに係る教育及び防災対策を通じた 地域コミュニティとの連携 [E.7.3. E.10.]

これら課題については、今後、重点的に協議を重ねることとしている。

[以下余白]



再認定審査報告書に係る資料 一覧表 [1/2]

秩父まるごとジオパーク推進協議会

資料No.	カテゴリ	報	告	書	説	明
資料1	C.	P.2	エリアの一体性			位置図 (ジオパーク秩父に係る地域)
資料2	C.	P.2	エリアの一体性			秩父広域図
	E.1.2.	P.8	境界線			
資料3	C.	P.2	エリアの一体性			甲武信生物圏保有地域 (甲武信ユネスコエコパーク)
資料4	C.	P.2	エリアの一体性			秩父多摩甲斐国立公園
資料5	D.	P.2	前回の指摘事項に関する取組・改善点			日本ジオパーク委員会からの指摘事項に関するアクションプラン (2016年)
資料6	D.	P.2	前回の指摘事項に関する取組・改善点			活動実績 (2015年度)
資料7	D.	P.2	前回の指摘事項に関する取組・改善点			活動実績 (2016年度)
資料8	D.	P.2	前回の指摘事項に関する取組・改善点			活動実績 (2017年度)
資料9	D.	P.2	前回の指摘事項に関する取組・改善点			活動実績 (2018年度)
資料10	D.	P.2	前回の指摘事項に関する取組・改善点			活動計画 (2019年度)
資料11	D.4.1.	P.4	パンフレット・WEBサイトの見直し 新パンフレットの作成			秩父まるごとジオパーク推進協議会公式ホームページへの誘導QRコード
資料12	D.4.3.	P.5	パンフレット・WEBサイトの見直し 看板の新規設置・多言語化など			三峰口の白川橋・安谷川マンガン採掘坑・明ヶ指のたまご水と大カツラ・札所32番 法性寺
	E.1.3.1.4.	P.10	可視性 (ビジビリティ) 現地看板の設置			
資料13	D.7.	P.6	複合型天然記念物指定に伴う保全・活用の検討			天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」保全活用計画策定に関する協定書
資料14	D.7.	P.6	複合型天然記念物指定に伴う保全・活用の検討			天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」保全活用計画案
資料15	D.7.	P.6	複合型天然記念物指定に伴う保全・活用の検討			公式リーフレット 「国天然記念物古秩父湾」
資料16	D.7.	P.6	複合型天然記念物指定に伴う保全・活用の検討			ジオパーク秩父 天然記念物モニターツアー
資料17	D.8.1.	P.7	新しいテーマやストーリーに沿ったジオツーリズムの展開 ニーズに合わせたモデルコースの拡充			新設した多種多様なモデルコース
資料18	D.8.1.	P.7	新しいテーマやストーリーに沿ったジオツーリズムの展開 ニーズに合わせたモデルコースの拡充			秩父市郷土学習教室
資料19	D.8.1.	P.7	新しいテーマやストーリーに沿ったジオツーリズムの展開 ニーズに合わせたモデルコースの拡充			東京シニア自然大学
資料20	E.1.1.1.	P.7	地形地質遺産および保全 地質学的重要性			地質年表・地質区分図・日本列島の中の埼玉・秩父
資料21	E.1.1.2.	P.8	地形地質遺産および保全 ジオパーク内のジオサイトの保全方法			ジオサイト評価一覧表
資料22	E.1.3.1.3.	P.9	可視性 (ビジビリティ) 冊子・パンフレットの作成			欠番
資料23	E.1.3.1.3.	P.10	可視性 (ビジビリティ) 冊子・パンフレットの作成			【現物】埼玉県立自然の博物館 「知って！埼玉」 展示解説書
資料24	E.1.3.1.4.	P.10	可視性 (ビジビリティ) 現地看板の設置			国天然記念物 露頭サイト 現地看板・案内看板
資料25	E.1.3.1.5.	P.10	可視性 (ビジビリティ) 展示・企画展			ジオパーク秩父 拠点施設一覧
	E.1.4.1.	P.13	施設・インフラ整備 拠点施設			
資料26	E.1.3.1.5.	P.10	可視性 (ビジビリティ) 展示・企画展			浦山ダム防災資料館 うららびあ 2階展示スペース
資料27	E.1.3.1.6.	P.11	可視性 (ビジビリティ) メディア・出版関係対応			ジオパーク秩父ツアー 秩父・長瀬 TVロケ地巡り
資料28	E.1.3.2.1.	P.11	可視性 (ビジビリティ) デザイン			ロゴマークデザイン_マニュアル
資料29	E.1.3.2.2.	P.12	可視性 (ビジビリティ) 観光系媒体への掲載			イベント開催時におけるブース出展
資料30	E.1.3.2.4.	P.12	可視性 (ビジビリティ) 交通系事業者に係る広告事業			秩父鉄道株式会社・清水運輸株式会社・西武観光バス株式会社 秩父丸通タクシー株式会社・西武鉄道株式会社
資料31	E.1.4.1.	P.13	施設・インフラ整備 拠点施設			リーフレット「おがの化石館」
資料32	E.1.4.3.	P.13	施設・インフラ整備 現地サイトの整備			現地サイト整備状況

再認定審査報告書に係る資料 一覧表 [2/2]

秩父まるごとジオパーク推進協議会

資料No.	カテゴリ	報 告 書		説 明
資料33	E.1.5.3.1.	P.14	情報・教育・研究 研究	ジオパーク秩父と化石を使った教育 (2014 吉田 宮城)
資料34	E.1.5.3.2.	P.14	情報・教育・研究 研究	ジオパーク秩父のジオサイト再選定方針 (2018 富田 井上)
資料35	E.1.5.3.3.	P.14	情報・教育・研究 研究	ジオパーク秩父の34ジオサイトの評価とその活用 (2019 高木 廣瀬)
資料36	E.1.5.3.4.	P.14	情報・教育・研究 研究	【現物】ちちぶ学セミナー 専門講座レポート集 ジオパーク秩父探求コース
資料37	E.1.5.3.5.	P.14	情報・教育・研究 研究	小鹿野町地域振興協会
資料38	E.1.5.3.6.	P.14	情報・教育・研究 研究	埼玉県博物館連絡協議会加盟館園 職員名簿〔抜粋〕
資料39	E.2.1.1.	P.14	自然遺産 国際レベル 甲武信生物圏保全地域(甲武信ユネスコエコパーク)	甲武信生物圏保全地域
資料40	E.2.1.4.	P.15	自然遺産 地元レベル	秩父市指定文化財一覧
	E.2.2.	P.15	文化遺産	
	E.2.3.3.	P.15	無形遺産 県レベル・地元レベル	
資料41	E.2.1.4.	P.15	自然遺産 地元レベル	横瀬町指定文化財一覧表
	E.2.2.	P.15	文化遺産	
	E.2.3.3.	P.15	無形遺産 県レベル・地元レベル	
資料42	E.2.1.4.	P.15	自然遺産 地元レベル	皆野町指定文化財一覧
	E.2.2.	P.15	文化遺産	
	E.2.3.3.	P.15	無形遺産 県レベル・地元レベル	
資料43	E.2.1.4.	P.15	自然遺産 地元レベル	長瀬町指定文化財一覧表
	E.2.2.	P.15	文化遺産	
	E.2.3.3.	P.15	無形遺産 県レベル・地元レベル	
資料44	E.2.1.4.	P.15	自然遺産 地元レベル	小鹿野町指定文化財一覧表
	E.2.2.	P.15	文化遺産	
	E.2.3.3.	P.15	無形遺産 県レベル・地元レベル	
資料45	E.3.1.	P.16	ジオパークの管理運営体制	秩父まるごとジオパーク推進協議会 会員名簿
資料46	E.3.4.	P.16	管理運営における地域コミュニティの代表者、先住民の役割	ガイド養成計画
	E.6.	P.18	持続可能なツーリズム	
資料47	E.3.7.	P.16	管理運営 マーケティング戦略	観光客満足度調査
資料48	E.3.7.	P.16	管理運営 マーケティング戦略	男女・年代別調査
資料49	E.5.2.	P.18	教育活動 生涯学習	ちちぶ学セミナー ジオパーク秩父探求コース
資料50	E.5.2.	P.18	教育活動 生涯学習	秩父市原谷公民館 ふるさと巡り講座 秩父市歴史文化伝承館(中央公民館) 郷土学習教室
資料51	E.5.2.	P.18	教育活動 生涯学習	放送大学埼玉学習センター 秩父から学ぶ郷土学-自然と風土
資料52	E.6.	P.18	持続可能なツーリズム	外国人モニターツアー実施結果報告書
資料53	E.6.	P.19	持続可能なツーリズム	中国 山西省 青少年日本研学旅行
資料54	E.6.	P.19	持続可能なツーリズム	訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業
資料55	E.6.	P.19	持続可能なツーリズム	インバウンドガイド養成 arce(アルセ)
資料56	E.7.1.1.	P.20	持続可能な開発ポリシー ちちぶ定住自立圏構想における各種取組と持続可能な開発目標(SDGs)との親和性	ちちぶ定住自立圏構想 第2次共生ビジョン
資料57	E.7.1.2.	P.20	持続可能な開発ポリシー 知的観光、体験観光としてのジオパーク	多摩らいふ倶楽部 日本工業大学駒場中学校1年生地学巡検
資料58	E.7.2.3.2.	P.22	パートナーシップ 民間企業(団体)における取組	てごせーの店 ジオクッキー
資料59	E.7.3.	P.23	地元コミュニティや先住民族の全面的かつ効果的な参加	中蒔田町会 田村町会
資料60	E.8.	P.23	ネットワーク活動	下仁田応援団受入れ 浅間山北麓ジオパーク訪問
資料61	E.10.	P.24	防災・安全対策、防災教育、災害対応	秩父市影森地区における防災教育_ジオ防災講座

自己評価表(A)に係る資料一覧表〔1/1〕

秩父まるごとジオパーク推進協議会

資料No.	評価表	資料名 (略称あり)	備考
資料A	1.1 領域	埼玉の自然誌冊子	現地審査当日 現物を提示 (データなし)
資料B	1.2 領域	埼玉県の地質鉱物冊子	現地審査当日 現物を提示 (データなし)
資料C	1.3 領域	早稲田大学 秩父ジオサイト評価 20190509	
資料D	1.2 地質保全	維持管理と清掃実績	
資料E	1.3 地質保全	「古秩父湾」冊子	現地審査当日 現物を提示 (データなし)
資料F	1.4 地質保全	文部科学省告示第29号 20160301 (国天然記念物指定)	
資料G	2 運営管理体制	当協議会 令和元年度 定例総会資料	
資料H	3 情報と環境教育	2019 ジオパーク公式テキスト (未定稿)	
資料I	4 情報と環境教育	各種出版物	現地審査当日 現物を提示 (データなし)
資料J	5 情報と環境教育	秩父市社会科副読本	現地審査当日 現物を提示 (データなし)
資料K	6 情報と環境教育	秩父市社会科副読本「ちちぶ」改訂ページ予定表	